



**これまで経験したことのない  
一体感が醸成された**

東京ガス株式会社は、平成21年の都市対抗野球大会本戦出場時、組織を超え全社横断的に社員約2万8千人が応援をした。この時、これまでに経験したことがないようなグループの一体感が醸成された。

スポーツの応援を通してグループ会社の心を一つにできる意義は大きいと、スポーツを応援する日として「応援Day」を設定。試合当日には、配布される応援グッズを持ちながらグループ会社を含めた大勢の社員が試合を応援する。

また、社員が応援の機会を逃さぬよう、試合日程等の周知による観戦者の参加促進や試合結果等を社内イントラに掲載するなどの工夫をし、社員に「みる」スポーツを推進。

さらに、硬式野球については応援担当部門をおき、都市対抗野球大会出場の際はチアリーダー等の応援演技や、応援リーダーによる手拍子及び掛け声で音頭取り等を行うなど応援を誘導している。

大会	応援 Day 及び応援者数 (延べ)		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
都市対抗野球大会	本戦 3 試合 29,000 名	本戦 4 試合 25,000 名	本戦 1 試合 19,000 名
FC 東京サッカー	8 日間 約 20,000 名	8 日間 約 20,000 名	8 日間 約 20,000 名
FC 東京バレーボール	2 日間 約 1,000 名	2 日間 約 1,000 名	2 日間 約 1,000 名
アメリカンフットボール	1 日間 約 2,000 名	1 日間 約 2,000 名	1 日間 約 2,000 名
ラグビー	2 日間 480 名	2 日間 390 名	2 日間 420 名



**企業 DATA**

所在地

港区

業種

総合エネルギー業

総従業員数

約 8,000 名

**障害者スポーツ競技大会のボランティア参加**

**ジャパンウィルチェアラグビー  
会場ボランティア**

平成27年5月同社がサポートする「2015 ウィルチェアラグビー競技大会」(主催:公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会)において、グループ社員が応援に駆けつけるとともに、会場の設営や撤去作業でボランティア支援を行った。



同社は、平成 25 年 1 月より公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして各種ジャパンパラ競技大会を支援。(平成 26 年度は陸上競技、水泳、ゴールボール、ウィルチェアラグビー、クロスカントリースキー、アルペンスキーの 6 種目)



大会は、体育館の床の上に専用パネルを敷きつめた

コートで行われ、14 名の社員がパネルの貼り合わせ・解体や車いすタイヤの汚れ拭き取りなどの会場設営と撤去を、ボランティアとして参加した。



大会期間中は、世界トップレベルの熱い戦いが繰り広げられ、最終日には日本がイギリスを下し、見事優勝を果たした。

**① 障害者スポーツ競技大会の観戦**

グループ社員を対象に障害者スポーツ競技大会の観戦や、会場ボランティア活動を実施し、障害者スポーツの理解促進を図っている。今後は、障害者スポーツの更なる理解促進と普及拡大を目指し、「障害者スポーツの観戦 Day」を設定し、競技観戦の裾野を広げる取組を行う予定だ。

大会	観戦者数(27 年度)
ジャパンウィルチェアラグビー競技大会	約 50 名
ジャパンパラ水泳競技大会	約 120 名
アジアオセアニア車椅子バスケットボール大会	約 50 名
アジアオセアニアウィルチェアラグビー大会	約 30 名

**② 朝のラジオ体操の実施**

毎日就業時、館内に「ラジオ体操」の音楽を流し、職場管理者がリーダーとなって、各職場で全員ラジオ体操を実施。

業務にあたる前の身体のストレッチ等を行うことにより、業務作業中の怪我を予防している。

**その他の取組**

**STAFF'S VOICE**

平成 27 年の都市対抗野球大会本戦は応援グッズを配布し、新入社員が中心となってスタンドを盛り上げました。当日は東京ガス、関係会社の社員やご家族等を含めて約 1 万 9 千人が東京ドームに集い、白球を追い丸となって応援をしました。ピンチ、チャンスの時には声をからしながら声援を送り、一球ごとに一喜一憂する姿に事務局として鳥肌が立つような興奮と感動を覚えました。